



第 68 回 「ボブ・ディラン」の言葉

北中正和著、「ボブ・ディラン」(新潮新書、新潮社、2023年2月)はミュージシャンとして初めてノーベル文学賞(2016年)を受賞したボブ・ディラン(以下、「ボブ」または「彼」と記します)の音楽活動とそれに対する姿勢について詳しく書かれた含蓄に富んだ書です。その中には科学研究に関する考え方と共通する記述が多く見られました。ここではそれらの記述に注目してみます。

ボブはユダヤ系の両親の間に米国ミネソタ州で生まれ(1941年)、初期の自作曲がヒットし、フォークのプリンスとして注目されるようになりました。その中で「風に吹かれて」は公民権運動に関わりの深い歌として広く親しまれていますね。このような初期の活動によりボブにはフォーク・シンガーとしてのイメージが定着し、自分たちの世代の代弁者と考えファンが増えました。しかしこのような傾向に居心地の悪さを感じたボブは、特定の社会的事件を主題とするのを避け、自分を取り巻く世界を多角的な視点で見つめ、比喩的に描いた歌を作り始めました。こうしてボブは「ライク・ア・ローリング・ストーン」のようなフォーク・ロックの分野を切り拓いたのです。

しかし当時のフォーク・ファンはロックを「子供だまし」と見下していましたので、彼らはフォークのプリンスであるボブを裏切者と思ったのだそうです。それでもそのような「子供だまし」のロックの中から伝統的なフォーク以上の興味深い曲が登場したので、これに戸惑ったフォーク・ファンは、形式にこだわるあまり、伝統が時代とともに更新されていくことが理解できませんでした。わかりやすいスローガンがないからという理由でボブを批判した人たちを著者は「指示待ち族」と名付け、彼らにはボブの思いの変化や成長が伝わらなかったことを指摘しています。これと同様の傾向は科学研究にも見られます。既成のオンシエル科学の伝統に従って研究を進め、理論の形式を整えてきた人たちにとって、オフシエル科学によってその伝統が更新されることが理解しにくいようです。後追い・指示待ちの人たちには先駆的な研究の意味が伝わらないのでしょうか。

やがてボブは「これからは自分の中から出てくるものを書く。10歳の頃のような書き方に戻らなければならない。すべてが自然に出てきた頃のように、歩いたりしゃべったりするように書きたい。」と考えるようになりました。科学研究でも伝統にとらわれず自分の望むテーマを見つけそれを継続して推進すること(ウォンツ型研究)が大事ですね。ボブにしてみれば社会的事件を弾き語りしていた時とはテーマや表現方法が違っただけで、表現したいことを追及していたことには変わりありません。ボブはファンに呆れられながらも音楽の流れを変え、生き抜いてきました。ボブは1960年代の交通事故の後に半隠遁生活を送りますが、1970年代に復帰し、現在も活動を続けています。科学研究でも、そのテーマが移っていても独創性を追求することには変わりありません。独創的な研究は初期のうちこそ周囲に呆れられるかも知れませんが、やがて科学の流れを変えるように大きく育つものです。そこに至るまで研究を継続することが大事ですね。

ロック・ビジネスが安定成長を続けた1980年代、ボブは巨大な会場でのコンサート・ツアーに居心地の悪

さを感じていたそうです。これを著者は「ボブには創造性が巨大な音楽ビジネスに吸い込まれていくように思えたのではないかと」と指摘しています。オンシエル科学が安定成長を続けた 1980 年代、そして飽和した 1990 年代には多くの研究者がこぞってその研究にしがみついていた。これらは独創性という観点では居心地が悪い時代でした。創造的研究が巨大な既成研究に吸い込まれるのは避けなければなりませんね。

ボブのノーベル文学賞の受賞理由は「古代から詩は朗詠されるものだった」ということのように。すなわち彼の歌は自己表現という以上に、時代の物語を運ぶ媒体として評価されました。ただし彼は「自分の歌が文学なのか」と問うたことは一度もなかったそうです。これはノーベル文学賞に決まったとき、この問いをめぐって巻き起こった議論のむなしさに対する彼なりの回答でしょう。歌と文学のどちらが優れているか比べても無意味ですから。「プロテスト・シンガー」、「フォークのプリンス」、「若者の代弁者」、「フォーク・ロックの先駆者」など、世間から貼られたレッテルから逃れることに苦勞してきたボブにとって、「文学者」という新しいイメージも迷惑この上ないものであったそうです。

著者は最後に「ボブは既成の芸能の在り方に反逆するような形でデビューしてきた人ですが、結果として彼の態度は芸能のあり方の枠をひろげるものでした。」と記しています。科学の分野でも独創的研究は既成の研究に反逆するような形で現れますが、長期的・大局的には研究の在り方の枠を広げるものなのです。